

研究課題名	入院中に心臓リハビリテーションを実施した循環器疾患患者におけるループ利尿薬とサルコペニア・フレイルの関連性
試料・情報の利用目的・利用方法（他機関へ提供する場合その方法）	ループ利尿薬は、体の余分な水分を尿として出しやすくするお薬で、心不全などの循環器の病気で「むくみ」や「息切れ」を改善するために広く使われています。一方で、動物の研究では、このようなお薬を使うことで筋肉が増えにくくなる（筋肥大が起こりにくくなる）可能性が報告されています。しかし、ヒトを対象にした研究は十分ではありません。 そこで本研究では、当院で循環器疾患のために入院し、入院中に心臓リハビリテーションを受けた患者さんを対象に、ループ利尿薬の量と、サルコペニア（加齢や病気などにより筋肉量や筋力が低下した状態）や、フレイル（体力や気力が低下し、転倒や要介護につながりやすくなる状態）に関連する指標との関係を明らかにすることを目的としています。
研究対象者	ベルランド総合病院に入院中、心不全の治療と複数回リハビリテーションを受けた患者さま
利用又は提供する試料・情報の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。 患者背景：年齢、性別、身長、体重、body mass index(BMI)、既往歴 転帰：入院期間、転院、自宅退院 薬剤：脂質異常症、血栓予防、高血圧、心不全、糖尿病、貧血などの治療に用いられる薬剤（HMG-CoA還元酵素阻害薬、抗血小板薬、抗凝固薬、レニン・アンジオテンシン系阻害薬、ベータ遮断薬、ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬、SGLT2阻害薬、鉄剤、ループ利尿薬、その他の利尿薬） 血液検査：アルブミン、血中尿素窒素(BUN)、血清クレアチニン(Scr)、推算糸球体濾過量(eGFR)、クレアチンクリアランス、LDLコレステロール(LDL-C)、脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)、ヘモグロビン、総リンパ球数 心臓超音波検査：左室駆出率(LVEF) 診療記録の記載に基づき、サルコペニアの指標である SPPB (Short Physical Performance Battery)、フレイルの指標である J-CHS (Japan Cardiovascular Health Study)を評価します。
研究予定期間	機関の長の実施許可日年月日 ～ 2028年3月
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られます
試料・情報を利用する者の範囲	この研究はベルランド総合病院薬剤部で行います
試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は機関の名称	ベルランド総合病院 薬剤科 氏名：眞野 裕
研究に協力したくない場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはございません。
利益相反について	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問合せ先	ベルランド総合病院 薬剤科 氏名：眞野 裕 メールアドレス：yakuzai@bh.seichokai.or.jp 〒599-8247 堺市中区東山 500-3 TEL：072-234-2001（代）

